

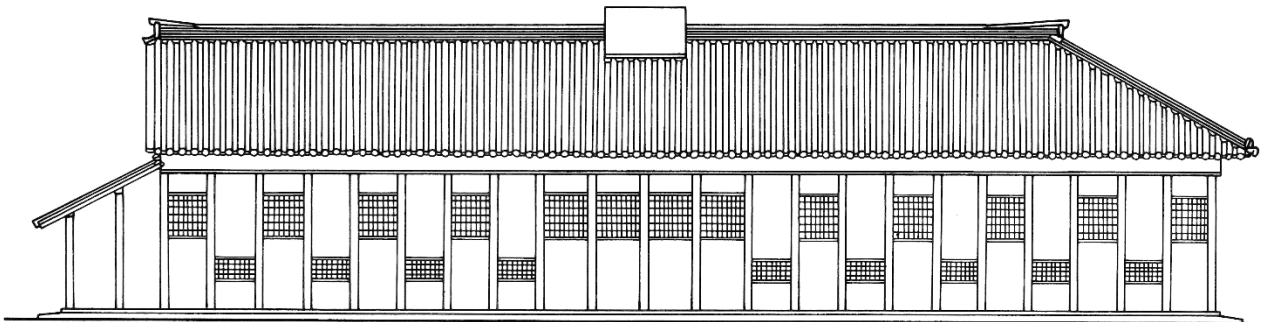
枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館

年

報

令和 6 年度

2 0 2 4



目次

1. 施設と組織・体制

(1) 施設の概要	1
(2) 展示施設	2
(3) 管理棟（体験工房）	3
(4) 組織・体制	3

2. 事業報告

(1) 展示	4
(2) 普及事業	8

3. 文化財等の調査・収集

(1) 民俗文化財収集整備業務	11
(2) 民俗文化財の保全	25

4. 体験工房

(1) 主催事業	26
(2) 施設利用	31

5. 施設利用・管理

(1) 資料館利用	32
(2) 資料館管理	32

6. 研究報告

資料紹介 鋳物師田中家の近代史料	34
------------------------	----

1. 施設と組織・体制

(1) 施設の概要

枚方上之町に所在した田中家は古くから鋳物業に携わり、江戸時代には、全国の鋳物師の大多数を統括していた真継家から鋳物師職許状や大工職許状を受けた鋳物師として、梵鐘、鍋、釜などを鋳造していました。

枚方市は、同家からその鋳物工場と住居の寄付を受け、昭和49年から昭和57年にかけて現在地に移築復元し、これを機に、田中家の鋳造業の歴史的な位置づけを目的として、鋳造に関する資料を収集し、地域の民俗文化財を合わせて、枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館として整備し、昭和59年10月に開館しました。

平成20年には展示パネルの改修や、鋳造をはじめ工芸や美術の創作活動が体験できる体験工房の整備を実施。平成28年10月から実施した耐震・改修工事にあわせて鋳物の歴史を伝える展示コーナーをリニューアルし、平成29年10月に再オープンしました。

歴史的・民俗的視点を切口に鋳造技術を紹介する施設は全国的に見て貴重であり、枚方市民や近隣の人々をはじめ、研究者、鋳造業者など全国から多くの見学者を集め、開館からの入場者数は、355,420人(令和7年3月末)となりました。

【資料館のあゆみ】

昭和48年3月30日	田中家住宅鋳物工場が大阪府有形文化財に指定される
昭和48年4月7日	枚方上之町田中宇之松氏から鋳物工場の寄贈を受ける
昭和49年から52年3月	鋳物工場を藤阪天神町に移築・復原する
昭和50年8月9日	枚方上之町田中宇之松氏から主屋の寄贈を受ける
昭和50年8月27日	田中家住宅主屋が大阪府有形文化財に指定される
昭和54年から57年3月	主屋を藤阪天神町に移築・復原する
昭和59年10月	枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館開館。1月から3月は休館。
平成7年4月	通年開館を実施。
平成18年4月から21年3月	指定管理者制度を導入。公募による指定管理者選定を実施(指定管理者:(財)枚方市文化財研究調査会)
平成20年7月	体験工房開設及び工場展示パネルリニューアル
平成21年4月から26年3月	公募による指定管理者選定を実施(指定管理者:(財)枚方市文化財研究調査会)
平成26年4月	耐震工事に向けて管理運営を直営で実施
平成28年3月	入館者数30万人を達成
平成28年10月から29年10月	耐震・改修工事のため展示施設部分は休館し、体験工房のみ開館する。耐震工事にあわせて工場常設展示を大幅リニューアル、復元竪穴式住居の屋根葺替を実施。
平成29年10月3日	リニューアルオープン

(2) 展示施設

枚方市内で近世以前から鋳物業を営んできた、田中家から寄贈された鋳物工場・主屋を枚方市が移築復原し、昭和59年から展示施設として公開・活用しています。

・田中家住宅主屋（大阪府指定有形文化財）

田中家の主屋は、桁行8間・梁行4間半、屋根は切妻造本瓦葺きの建物で正面に庇を設けています。元文4年（1739）に釣鐘を鋳造した時の祈禱札が打たれていたことから、建築年次の下限がわかりますが、建物の形式手法からみて、17世紀までさかのぼれるものではありません。

建設当初の平面は、整形四間取りでした。土間は表側の部分が仕切られ、「うまや」として使われていたようです。釜屋はそのうしろにあり、煙返しのために梁を低くし、内部の天井は土で塗り込めています。

構造は梁の上に根太天井を渡し、「厨子二階」をつくり、中央棟下の柱間に地棟を渡し、登梁を使用して小屋を組んでいます。平面は全体に農家のものに類似していますが、このような瓦葺きの構法を取ったのは、鋳物師という火を使う職業であったためではないかと思われます。

同家の主屋は、伝統のある鋳物師の住居であるという点、および河内の民家としても、交野市の山添家住宅（重要文化財）に続く時期の特徴を良く残しています。

・田中家住宅鋳物工場（大阪府指定有形文化財）

鋳物工場は、桁行12間・梁行5間半、屋根は寄棟造本瓦葺きで建築年次は不明ですが、主屋とあまりへだたりのない時期の建築であると思われます。周囲は半間おきに柱がたち、高さを変えて格子窓がつかます。

正面にあたる東側では、南半が格子窓、北半は下地窓を連子風にしています。このように窓が多いのは鋳込み作業の時、室内がかなり高温になるためではないかと思われます。

内部は西側4間を身舎にとり、入側は1間おきに独立柱がたちます。工場のほぼ中央部にあたる5・6間目は柱間がのび（1間1.97mに対して2.2m）、棟下には炉が置かれ、その上の方1間の風袋が壁土で塗り込められ、換気の役を果たしていました。炉の背面の1.5間×2間は「たたら場」で二方を厚い土壁でふさぎ、ふいごを置いて溶解を行いました。両側の作業場は土間で砂を敷き、その上に鋳型を置いて鋳込みを行っていました。

以上のように、田中家鋳物工場は、近世の鋳物工場としては全国に例をみない珍しい建築遺構です。

・復元竪穴住居

田口山遺跡で発掘された弥生時代中期の竪穴住居跡をモデルに復元したものです。直径8m50cmの平面円形の住居で、高さ約5mの茅葺屋根です。屋根は平成29年11月に葺替えています。

・弥生時代の竪穴住居跡

長尾西遺跡で発掘された弥生時代後期の実物の住居跡。方形住居跡の約半分をとどめるだけですが、炭化材が残っていたため、地面から切り取って移設・保存しています。

(3) 管理棟 (体験工房)

当館は鋳物の歴史資料館であることから、平成 20 年度に管理棟内に、ものづくりの体験ができる体験工房を開設し、鋳造、七宝、彫金等の主催講座を開催しているほか、講座参加者を中心に結成したサークルが体験工房を利用して、美術・工芸などの創作活動を行っています。

【施設概要】

名称	枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館
所在地	枚方市藤阪天神町 5 番 1 号 (JR 学研都市線藤阪駅徒歩 7 分、京阪バス藤阪徒歩 5 分)
施設内容	<p>① 開館 昭和 59 年 10 月 3 日</p> <p>② 敷地面積 8,114.67 m²</p> <p>③ 建築面積 791.26 m²</p> <p>④ 延床面積 1,174.01 m²</p> <p>⑤ 建築構造・主な施設内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋳物工場(木造平屋) 展示室 ・主屋(木造平屋) 陳列棟 部屋 4 室、土間等 ・管理棟(鉄骨 2 階) <p>1 階 収蔵庫、体験工房等 2 階 事務室、収蔵庫、研究室等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復元竪穴住居

【配置図】



(4) 組織・体制

当館は枚方市観光にぎわい部文化財課所管施設として運営し、館長、学芸員以下が資料館の日常的な管理・運営を行っている。

[体制]

観光にぎわい部長—次長—文化財課長—課長代理—館長—学芸員(週 4 日) 2 名
 —歴史資料整理員(延 36 日) 1 名
 —資料館業務等補助員

2. 事業報告

(1) 展示

①常設展

ア. 工場

枚方の鋳物師田中家旧蔵の鋳造道具や田中家の歴史、現代の枚方で製造されている鋳物製品を展示。

イ. 主屋

枚方市域の民俗文化財を展示。露出展示のため、比較的傷みや劣化に耐える民俗資料で、「枚方のむかしの生活」として展示。小学校の地域学習や歴史学習などに活用されることが多く、子ども向けのワークシートを作成し、見学の便を図った。

②企画展（ちょこっと展）

竹の道具

展示期間：令和6年4月20日～令和6年7月7日

土間トーク 4月29日

内 容：かつて日用品として多く使われていた竹製の民具を展示するとともに、「竹かごづくりの村」として知られた山之上地区の歴史を紹介した。

展示資料：味噌こし、茄子洗、米あげ、飯籠、せいろ、かぶせ、葛籠、シンドウ、担籠、天秤棒、傘、ささら、伸子針、たらい、石炭籠、箕、鎌籠、花立、茶摘籠、手付籠



展示風景



手しごと

展示期間：令和7年1月25日～令和7年3月23日

土間トーク 2月2日、3月15日

内 容：手しごとによってつくられた藁・竹・布を素材とする民具を展示し、モノづくりの技を紹介した。

展示資料：横槌、たたき台、かます、藁袋、棧俵、草履、牛の鞍、牛の草鞋、茶碗籠、茄子洗、鎌籠、味噌こし、角籠、しんどう、飯籠、米あげ、広蓋、炭籠、花籠、洗い張りした長着、巾着、はぎれ、地下足袋、縞帳



展示風景



③庭園「河内木綿栽培展示」

資料館で常設展示している機・実繰・紡車と関連づけた説明ができるように、「昔の暮らし」学習に有用な綿を初夏から秋にかけて栽培。

④館外展示

枚方宿まちかど歴史展示 展示期間：令和6年12月1日～令和6年12月15日

枚方宿の複数の店舗で文化財の展示を行い、歴史や文化をより広く知ってもらうとともに、人の流れを創出し地域の活性化を図り、また、枚方宿の歴史についての理解を深めていく目的で、枚方宿まちづくり協議会、枚方文化観光協会（鍵屋資料館）、枚方市（文化財課）の3者共催の展示を行い、そのうち当館は、店舗所蔵の民具4点を展示解説した。

展示風景



阪伏出船時間表
くらわんかギャラリー



扇風機
塩熊商店



吊皿秤
北村みそ本家



鬼瓦
枚方凍氷

⑤アンケートの実施

入館者にアンケート調査（任意記入）を実施し、総数 67 枚の回答を得た。職員の対応は「よかった」が 86%、展示の内容はいずれも「わかりやすい」が 86%以上を占めた。

令和6年度（6年4月～7年3月）アンケート集計

総回答数 67 枚（重複・未回答あり）

1.年齢

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
人数	16	3	3	6	9	11	14	7	69
率	23.2%	4.3%	4.3%	8.7%	13.0%	15.9%	20.3%	10.1%	100.0%

3.お住まい

	枚方市内	大阪府内	大阪府外	合計
人数	28	23	15	66
率	42.4%	34.8%	22.7%	100.0%

4.誰と一緒に来られましたか

	家族	友人	団体見学	ひとり	その他	合計
人数	30	10	10	21	0	71
率	42.3%	14.1%	14.1%	29.6%	0.0%	100.0%

5.資料館を何で知られましたか

	広報『ひらかた』	ホームページ	人からきいて	通りがかり	ポスター	チラシ	その他	合計
人数	3	6	14	9	0	4	31	67
率	4.5%	9.0%	20.9%	13.4%	0.0%	6.0%	46.3%	100.0%

6.こちらまでの交通手段は何でしたか

	電車	バス	タクシー	自転車	バイク	自家用車	徒歩	合計
人数	20	11	0	5	3	22	9	70
率	28.6%	15.7%	0.0%	7.1%	4.3%	31.4%	12.9%	100.0%

7.職員の対応は適切でしたか

	よかった	ふつう	よくない	合計
人数	58	9	0	67
率	86.6%	13.4%	0.0%	100.0%

8-1.展示内容はいかがでしたか(工場)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	合計
人数	60	7	0	67
率	89.6%	10.4%	0.0%	100.0%

8-2.展示内容はいかがでしたか(主屋)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	合計
人数	50	8	0	58
(%)	86.2%	13.8%	0.0%	100.0%

(2) 普及事業

①講座

館内事業として、各種催しや企画展関連行事などを実施。

講座一覧

講座名	開催日	参加者数 (付添含む)
古文書講座「むらの寺と神社」	6月21日・28日、7月5日・12日	23人
オバケちょうちんづくり	8月4日	74人
布ぞうり講習会	9月26日	6人
収穫&カマドでご飯!	10月19日	14人
古文書講座「枚方村の鋳物師」	11月15日・22日・29日・12月13日	15人
合計	開催日数 11日	132人

実施風景



6月28日
古文書講座「むらの寺と神社」



8月4日
オバケちょうちんづくり



9月26日
布ぞうり講習会



10月21日
収穫&カマドでご飯!



11月15日
古文書講座「枚方村の鋳物師」

②見学・取材等対応

ア 小学校への対応

(出前授業)

出前授業は地域学習や総合的学習（小学3年生）、歴史学習（小学6年生・中学校1年生）などの学校教育との連携を図るとともに、資料館PRの一環として企画。以下のプログラムを用意し、教員の希望に応じて実施する形態で、今年度は下記小学校で開催した。

- (a)「綿から布へ」 綿の実から糸を紡ぎ小さな布を織る。
- ・綿の話と糸紡ぎ〔45分〕（綿栽培などについての話と綿から糸を紡ぐ作業の体験）
 - ・簡単はたおり体験〔45分～90分〕（厚紙で作ったハタで、しおりかコースターを織る）
- (b)「古いもの調べ」 民具を使って、枚方の昔の暮らしを説明する。
- ・『わたしたちのまち枚方』『昔のくらし』の解説
 - ・釜・飯ふご・箱膳・洗濯板などふるい道具を持参
- (c)「糸車実演」 小学1年生の国語教科書「たぬきの糸車」にも登場する糸車（紡車）の実演と、材料の木綿から手で糸を紡ぐ体験
- (d)「枚方の鋳物づくりと昔のくらし」
- ・鋳物に関する模型や、釣鐘の実物大写真などを用いて、昔の鋳物づくりについて解説。

出前授業

日時	学校名	学年	クラス	児童数	講座内容
10月 1日 2～5限	香里小学校	3年生	1～4組	124人	枚方の鋳物づくりと昔のくらし
1月 8日 3限	桜丘北小学校	3年生	1～2組	53人	古いもの調べ
24日 5限	蹉跎小学校	3年生	1～2組	69人	古いもの調べ
28日 6限	枚方小学校	3年生	1～4組	106人	古いもの調べ
29日 4限	蹉跎西小学校	3年生	1～2組	72人	古いもの調べ
30日 2・3限	蹉跎小学校	3年生	1～2組	69人	枚方の鋳物づくりと昔のくらし
2月 4日 5限	西長尾小学校	3年生	1～2組	48人	古いもの調べ
合計	学校数 6校 (7回)		学級数 18クラス		受講者数 541人

(社会見学)

小学校3年生の社会科単元「枚方市のようす」、「昔のくらし」の導入で、社会見学に資料館がよく活用される。理解することが難しくなった昔の生活を実感し、興味を抱くよう学芸員が展示説明を行い、書込式のワークシート「けんがくノート」も配布。

社会見学

実施日	学校名	学年	人数 (引率者数)
5月 15日	香陽小学校	3年	57人 (5人)
31日	津田小学校	3年	71人 (6人)

9月 5日	開成小学校 3年	71 人 (6 人)
25日	樟葉北小学校 3年	55 人 (5 人)
25日	中宮小学校 3年	80 人 (6 人)
27日	蹉跎東小学校 3年	53 人 (5 人)
10月 2日	明倫小学校 3年	37 人 (5 人)
4日	禁野小学校 3年	70 人 (6 人)
8日	香里小学校 3年	122 人 (8 人)
8日	殿山第一小学校 3年	42 人 (5 人)
10日	伊加賀小学校 3年	84 人 (7 人)
29日	枚方第二小学校 3年	84 人 (6 人)
11月 6日	山田小学校 3年	30 人 (3 人)
7日	樟葉南小学校 3年	68 人 (5 人)
12日	平野小学校 3年	92 人 (8 人)
12月 13日	藤阪小学校 3年	55 人 (3 人)
1月 22日	菅原東小学校 3年	164 人 (7 人)
合計	学校数 17校	参加者数 1331人

下見対応 13校

イ 博物館実習

8月24日～29日旧田中家鋳物民俗資料館及び鍵屋資料館で6人を受け入れた。

参加者は、京都女子大学・京都府立大学・同志社女子大学・八洲学園大学（各1人）、龍谷大学（2人）。

うち、当館では8月27日～29日の3日間を担当。

21日 オリエンテーション、展示解説、収蔵庫見学

22日 主屋雨戸、常設展示資料クリーニング。民具登録実習。

23日 古文書調書作成実習。講評と意見交換

ウ 取材

① 聖教新聞

令和6年11月20日取材、令和7年2月13日に掲載された。

エ その他

① 関西考古学の日

令和6年9月1日～11月30日に実施された関西考古学の日に参加した。

② 関西文化の日

令和6年11月1日～30日に実施された関西文化の日に参加した。

3. 文化財等の調査・収集

(1) 民俗文化財収集整備業務

①民俗文化財の収集・調査・整備

民俗文化財の収集活動については、資料の状態やその学術的価値、収蔵庫の状況によって判断するため、調査の上で寄贈依頼に対応している。調査では、有形資料の現況確認の他、使用や製作技術といった無形民俗の聞きとりを行っている。

有形民俗文化財収集一覧

実施日	寄贈者	点数	資料
4月10日	個人	23点	箱寿司型、盃、盆石等
4月10日	個人	5点	平籠、七輪、瓦
4月17日	個人	4点	カンテラ、揚水ポンプ用ホース、金庫
5月15日	個人	1点	前挽鋸
6月12日	個人	1点	提灯



箱寿司型



盃



盆石



平籠



瓦



カンテラ



前挽鋸



提灯

活用資料収集一覧

実施日	寄贈者	点数	資料
5月15日	個人	1点	唐箕
2月14日	個人	2点	鉾滓

民俗文化財調査一覧

実施日	調査地	資料
11月20日	津田東町	足踏みミシン、柱時計、節句人形 (寄贈の依頼があり調査)
1月29日	資料館	鉾滓 (寄贈の依頼があり調査)

②資料調査

- ・津田三宅家文書の調査
民俗調査を実施している津田に伝来した古文書を、市史資料室と目録作成を実施。
- ・侍座文書の調査
津田春日神社の宮座のうち、侍座が所蔵する古文書を調査した。
- ・ひらかた市民菊人形の会所蔵写真の調査
ひらかた市民菊人形の会が所蔵する、人形師武河重仁氏が撮影した写真を調査、スキャン作業と目録作成を実施。
- ・枚方市・津田町合併式辞資料調査
昭和30年10月15日の合併に先立ち行われた津田町役場廃庁式の挨拶を借用、写真撮影・翻刻を実施。
- ・資料館収蔵資料のデジタル化
資料館に収蔵している調査写真などのネガフィルムのスキャン作業と、民俗調査ノートの入力作業を実施。

③民俗調査等

民俗文化財調査の一環として、令和4年度に実施した神社の祭礼行事のアンケート結果に基づき、布団太鼓等の確認調査を行った。

その他、津田の宮座等、聞き取り調査を実施した。

実施日	調査地	内容
4月8日	津田	土山神社祭礼の調査
7月25日	穂谷	黒豆栽培について聞き取り調査
7月28日	津田	春日神社提灯(大峰町)調査
8月10日	津田	春日神社提灯(横町・田中町)調査

8月11日	津田	春日神社提灯（市場町）調査
8月24日	津田	春日神社提灯（谷町）調査
9月7日	津田	春日神社提灯（大谷町）調査
10月12日	新町	新町布団太鼓組み立て等調査
10月13日	枚方	布団太鼓巡行調査
10月18日	藤阪	菅原神社太鼓調査
10月18日	津田	春日神社提灯たて、宵宮調査
10月19日	津田	春日神社宮座神事、秋季例大祭調査

布団太鼓の確認調査の概要

意賀美神社の布団太鼓は、岡新町、岡本町、岡東町、三矢町の4町が10月第2日曜日に枚方宿を巡行する。各町の倉庫で保管している布団太鼓を巡行の数日前から組み立て、飾り付けを行う。巡行の日の朝、各町の代表者が意賀美神社に集まり、札の授与式を行う。

地区名	布団太鼓等	現在の様子	写真
岡新町	布団太鼓1基 子ども布団太鼓1基	倉庫で保管 布団太鼓巡行(10/13)の前日に枚方モールの西側の京阪電車高架下で組み立て、飾り付け	
岡本町	布団太鼓1基	倉庫で保管 布団太鼓巡行(10/13)の3日前から岡本町公園で組み立て、飾り付け	
岡東町	布団太鼓1基 子ども神輿※ 1基	倉庫で保管 布団太鼓巡行(10/13)の3日前に岡東公園北側の空き地で組み立て、飾り付け	
三矢町	布団太鼓1基 子ども布団太鼓1基	倉庫で保管 布団太鼓巡行(10/13)の3日前から三矢公園で組み立て、飾り付け	

※岡東町の子ども神輿は地元でそのように呼んでいるが、形状は神輿ではなく、舟形のものに飾り付けをして曳くもの。

春日神社（津田）祭礼調査の概要

春日神社は、市域東部の中心的村落であった津田村の氏神で、創立年代は明らかではないが、中世に三之宮神社の内宮として祀られたと伝えられている。現在の本殿は天明6年（1786）に奈良春日大社本殿を移築した「春日移し」であり、末社若宮八幡宮本殿も同年に奈良春日大社末社三十八所神社を移築した「三十八所移し」である。「三十八所移し」は奈良県内に7棟、大阪府内ではこの1棟しか確認されておらず、2棟同時に譲り受けたことがわかる貴重な遺構であるため、平成23年に市有形文化財に指定している。

津田の秋祭りといえば「提灯と太鼓」といわれる。旧暦9月18日が宵宮、19日が本宮であったが、現在は10月18日に宵宮、19日に本宮を行う。7つの町が出す丈160cmほどの大型の箱提灯は、上輪・下輪に龍と宝珠、雲、波、龍宮城と浦島太郎などの立体的な鍔金具が付き、火袋には献燈の文字、下り藤と三巴紋、鹿と紅葉が色鮮やかに描かれている。本殿前に谷町、市場町、田中町、大谷町の各町から1張ずつ、大峰町から1対2張の計6張、拝殿入口に横町から1対2張、嶽町から2対4張の計6張の大提灯を出す。拝殿の軒先には丸提灯（ほおずき提灯と呼ぶ）も吊るす。神社前の道路上2か所に高さ5mほどのヤグラに提灯を掲げるが、これは「南の辻提灯」、「北の辻提灯」と呼ばれており、各町が毎年輪番で立てる。また、家々の門には家紋を入れた提灯を掲げる。

宵宮、本宮には拝殿に口径約90cmの大太鼓を据え置く。「ドンドンツツドンドンツツドンドンツツドンドンツツ（サイ）」という節がある。子どもたちは誰でも自由に太鼓を叩くことができる。

提灯の寄進は「見聞録」に記述がみられ*1、天明6年に本殿を移築し、普請が終わった寛政元年（1789）9月18日に各町の若中から大提灯10張が寄進されたことがわかる。現存する大提灯がこの時寄進されたものかは不明である。嶽町の提灯箱には天保13年（1839）の銘、横町の提灯箱には安政2年（1855）の銘がある。谷町、市場町、大谷町、大峰町の提灯箱にはすべて文久3年（1863）の銘、箱蓋裏に鍔金物師・塗師・提灯師（それぞれ同じ名前）の墨書があるため、同時に作ったものと考えられる。また、田中町は提灯修復時に箱も新調しているが、箱に「田中町/文久三年」と書かれており、鍔金具の模様からも文久3年に谷町等と同時に作ったものと考えられる。

現在、提灯一式は境内の蔵で保管しており、各町が土用の期間に虫干しを行い、秋祭りの宵宮と本宮に出す。宵宮の日は午前6時頃に出し、午後9時頃に仕舞い、本宮も同様に出す。かつては、提灯は各町長宅で保管し、土用の虫干しと祭りの提灯かけは若中の役割であったことが「宮座調査ノート」*2からわかる。また、昭和30年頃までは青年団が提灯の火の番を行っていたことが聞き取り調査からわかっている。提灯の配置図は16頁、大提灯の詳細は17～23頁に記載のとおり。

太鼓の寄進も「見聞録」に記述がみられ*1、大提灯寄進の翌年、寛政2年（1790）9月16日に氏子から2尺9寸の太鼓が寄進されたことがわかる。

平成28年1月に両面の皮を張替えた際、胴内に「寛政二歳/戌九月吉日/撰州大坂渡辺村/細工人太鼓屋/又兵衛（花押）」の文字が見つかった。胴内には文政9年（1826）、天保4年（1833）、天保14年、弘化4年（1847）の年号と村名、細工人名等も書かれており、代々修

理しながら現在まで伝わったものとわかる。大太鼓の詳細は24頁に記載のとおり。

現在、太鼓は集会所で保管しており、各町が輪番で10月18日の早朝に拝殿へ運び設置し、19日の夜に集会所へ運び片づける。

以上のように、津田の秋祭りには、江戸時代後期の年紀を持つ大提灯箱や大太鼓が現存しており、各町から提灯を出すという行為も江戸時代から変わらず今に続いている。祭りに銚金具の付いた大型の箱提灯を出すという事例は他に見られず、ムラの構造や祭礼の在り方がわかる貴重な民俗文化財であるため、令和7年3月10日付で「春日神社（津田）の秋祭り」を枚方市登録文化財に登録した。

*1 「見聞録」の記述

津田村の役人日記は「見聞予覚集」、「見聞覚知記」、「見聞録」、「則留記」があり、元禄2年(1689)から天保5年(1834)の記録が残っている。「見聞録」は延享元年(1744)から文政2年(1819)の記録である。

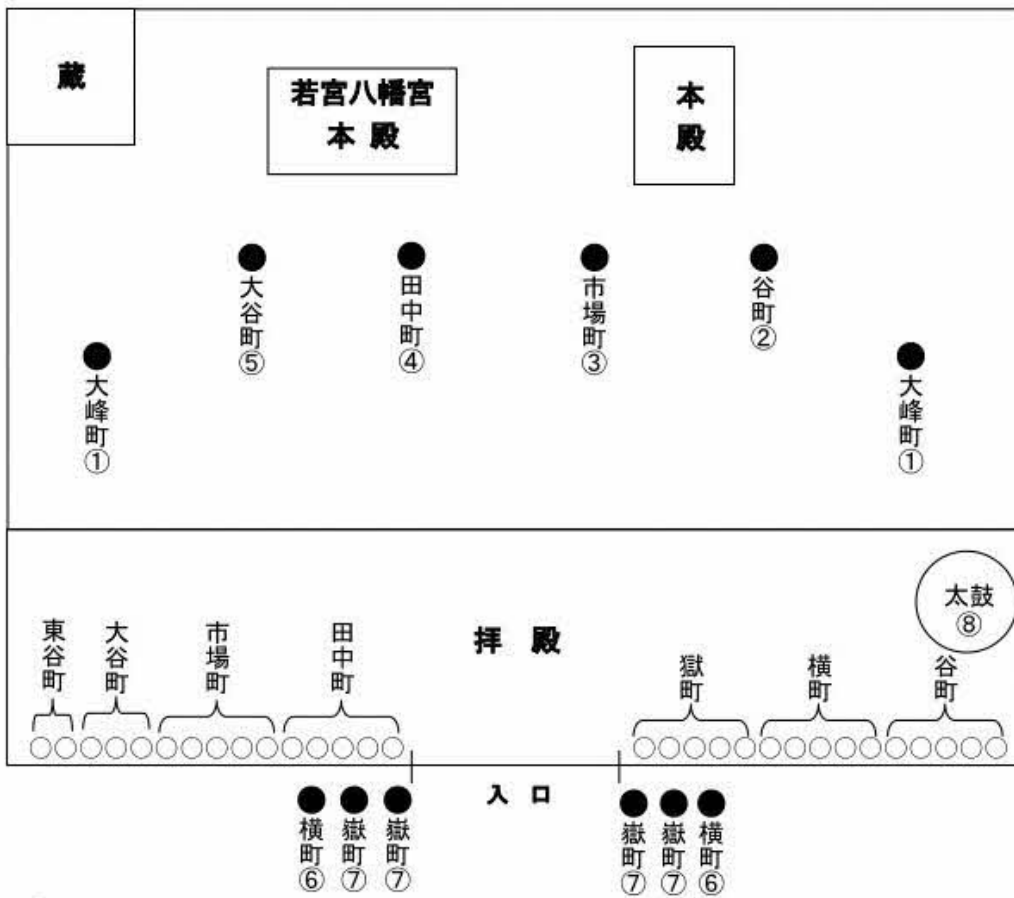
「見聞録」によると、春日神社の普請は安永9年(1780)の拝殿建替から始まる。天明6年(1786)に奈良に宮と若宮を受け取りに行き、移築している。塀等の整備も行ったようで、大工事であったことがわかる。寛政元年(1789)9月17日に「当社普請出来ス」とあり、翌日9月18日に「村中若中々大ちやうちん拾ふり寄進」の記述がある。また、翌寛政2年9月16日には「宮太鼓出来、氏子中々寄進、式尺九寸」の記述があり、この年には絵馬や狛犬も寄進している。

*2 肥後和夫 宮座調査ノート

民俗学者の肥後和夫が昭和10年前後に実施した宮座調査では、春日神社(津田)も調査されており、若中に関する記述に提灯のことがみられる。

「若連中ノ集合時期及場所 土用ノ期間旧町長 市場町、田中町、嶽町、横町、谷町、大谷町、東谷町、大峯町 ノ家ニ於イテ提灯干ヲナスタメニ集合。祭(九月十九日)提灯カケノタメ同ジク各町長宅ニ集合ス、町長宅ハ提灯保管所デアツタカラデアル。現在ハ社ノ境内ニ保管ス。」

提灯の配置図



●大提灯

○ほおずき提灯

※東谷町は大谷町から分かれた町で、

大提灯は大谷町として出す

※丸番号は別添資料と対応する

①大峰町 提灯1対2張を本殿前に出す

大きさ	画像
<p>【提灯1】最大長143cm、径51cm、火袋の竹の幅0.5cm（内々）</p> <p>【箱1】縦64cm、横64cm、高（蓋なし）71cm、箱蓋縦67cm、横67cm、高6.5cm</p> <p>【提灯2】最大長133cm、径51cm、火袋の竹の幅1.2cm（内々）</p> <p>【箱2】縦64cm、横64cm、高（蓋なし）71cm、箱蓋縦67cm、横67cm、高6.5cm</p>	 <p>提灯1 (平成23年10月18日撮影)</p>
<p style="text-align: center;">鍔金具</p> <p>上輪に龍1匹と雲</p> <p>下輪は宝珠に向き合うように龍2匹と波</p> <p>上輪上部に三巴紋と下り藤が交互に3つつ</p> <p>下輪下部に三巴紋と下り藤が交互に3つつ</p> <p>下輪の蓋に蝶の鍔金具が付く</p>	 <p>提灯2 (平成23年10月18日撮影)</p>
<p style="text-align: center;">墨書</p> <p>【提灯1】【箱身】「提燈」「癸文久三/亥九月/吉日」「大峯町」「若中」</p> <p>墨書【箱蓋】（裏）「鍔金物師/心齋橋本町北/岩井半兵衛/源兵衛/塗師/太兵衛/西横堀奈良屋橋西詰/挑灯師/綿屋/善七」</p> <p>【提灯2】【箱身】「提燈」「癸文久三/亥九月/吉日」「大峯町」「若中」</p> <p>墨書【箱蓋】（裏）「鍔金物師/心齋橋本町北/岩井半兵衛/源兵衛/塗師/太兵衛/西横堀奈良屋橋西詰/挑灯師/綿屋/善七」、（後筆、マジック）「昭和五十九年十二月張替」</p>	 <p>提灯1の下輪下部 (平成23年10月18日撮影)</p>

その他

【幕箱】蓋に「挑燈 [] /大峯/所口」、身横に「天保十三壬寅歳九月吉日」の墨書あり。

【房箱】「慶応二丙寅九月日/提灯房笥/大峯町若中」の墨書あり。

【鈴箱】蓋に「鈴笥」、身横に「于時元治元年/甲子九月仲旬調之」「大峯/若中」の墨書あり。

提灯2は昭和59年に張り替え。

②谷町 提灯1張を本殿前に出す

大きさ	画像
<p>【提灯】最大長 160 cm、径 54cm 【箱】縦 70.5 cm、横 69.5 cm、高（蓋なし）79 cm（補修あり）、箱蓋 73.5 cm、横 73.5 cm、高 7 cm</p>	 <p>提灯(平成 23 年 10 月 18 日撮影)</p>
鍔金具	 <p>上輪の龍の鍔金具(令和 6 年 8 月 24 日撮影)</p>
<p>上輪は龍 1 匹と雲 下輪は宝珠に向き合うように龍 2 匹と波 上輪上部に三巴紋と下り藤が交互に 3 つずつ 下輪下部に三巴紋と下り藤が交互に 3 つずつ、菊の花と葉の模様 下輪の蓋に蝶の鍔金具が付く</p>	 <p>箱蓋の墨書(令和 6 年 8 月 24 日撮影)</p>
墨書	
<p>【箱身】「提燈」、「谷町」、「若中」、「癸文久三／亥九月／吉日」、（内側）「世話人／若中／源左衛門／平兵衛／升兵衛／喜太郎／長造／要治郎／太四郎／口口吉／吉治郎／由治郎／末治良／由治／末吉／辰治郎」 【箱蓋】（表）「河内交野郡／津田村／四町」、（裏）「鍔金物師／心齋橋本町北／岩井半兵衛／源兵衛／塗師／太兵衛／西横堀奈良屋橋西詰／挑灯師／綿屋／善七」</p>	

その他

【鈴箱】蓋に「鈴箱」、身横に「鈴箱」「明治貳拾三年拾月日」「谷町」「若中」の墨書あり。

③市場町 提灯1張を本殿前に出す

大きさ	画像
<p>【提灯】最大長不明、径 51cm、火袋の竹の幅 1cm（内々）</p> <p>【箱】縦 70 cm、横 70 cm、高（蓋なし） 78 cm、箱蓋 縦 73 cm、横 73 cm、高 7 cm</p>	
<p>銚金具</p>	<p>提灯(平成 23 年 10 月 18 日撮影)</p>
<p>上輪は龍 1 匹と雲</p> <p>下輪は宝珠に向き合うように龍 2 匹と波</p> <p>上輪上部に三巴紋と下り藤が 3 つずつ、その間に一回り小さい三巴紋が 6 個</p> <p>下輪下部に三巴紋と下り藤が交互に 3 つずつ、菊の花と葉の模様</p> <p>下輪の蓋に蝶の銚金具が付く</p>	
<p>墨書</p>	<p>下輪下部の銚金具(平成 23 年 10 月 18 日撮影)</p>
<p>【箱身】「提燈筥」「癸文久三/亥九月/吉日」「若中」「市場町」、(内側)「浦北」、「横西」、「前南」「横東」「(ヤマ)十」</p> <p>【箱蓋】(表)「河州交野郡/津田村/四町」、(裏)「銚金物師/心齋橋本町北/岩井半兵衛/源兵衛/塗師/太兵衛/西横堀奈良屋橋西詰/挑灯師/綿屋/善七」、(側面内側)「若市」</p>	
	<p>箱身横の墨書(令和 6 年 8 月 11 日撮影)</p>




その他

【房箱】蓋表に「元治元子年九月/御房箱/市場若中」「市場町若中」の墨書あり。

【鈴箱】蓋表に「鈴箱」、身横に「元治元年」「子九月」「市場」「若中」の墨書あり。

【丸提灯箱】蓋表に「市場丁/挑灯箱/若中」、蓋裏に「安政辰年九月日」の墨書あり。

④田中町 提灯1張を本殿前に出す

大きさ	画像
<p>【提灯】最大長 148 cm + α、径 54cm 【箱】縦 70 cm、横 70 cm、高（蓋付）80.5 cm（蓋なし）79 cm</p>	 <p>提灯 (平成 23 年 10 月 18 日撮影)</p>
錆金具	 <p>提灯の虫干し (令和 6 年 8 月 10 日撮影)</p>
<p>上輪は龍 1 匹と雲 下輪は宝珠に向き合うように龍 2 匹と波 上輪上部に三巴紋と下り藤が 3 つずつ 下輪下部に錆金具あり（詳細未確認）</p>	 <p>上輪の龍の錆金具 (令和 6 年 8 月 10 日撮影)</p>
墨書	
<p>【箱身】「田中町/平成九年十月吉日」、「田中町/文久三年」 【箱蓋裏】「平成九年十月吉日/田中町内会」</p>	

その他

提灯は平成9年に張りなおし、その時に提灯箱も新調した。

【房箱】蓋裏に「明治廿二歳/丑拾月中浣調之」の墨書あり。

【鈴箱】身横に「御鈴箱」「文久三亥九月吉日」「田中若中」の墨書あり。

【丸提灯箱】身横に「丸提燈箱」「文久三/亥九月/吉日」「田中若中」の墨書あり。

⑤大谷町 提灯1張を本殿前に出す

大きさ	画像
<p>【提灯】最大長 150 cm、径 52 cm 【箱】縦 70.5 cm、横 69.5 cm、高（蓋なし）79 cm（傷みあり）、箱蓋 73.5 cm、横 73.5 cm、高 7 cm（傷みあり、補修あり）</p>	
<p>鍔金具</p>	<p>提灯の虫干し(令和6年9月7日撮影)</p>
<p>上輪は龍1匹と雲 下輪は宝珠に向き合うように龍2匹と波 上輪上部に三巴紋と下り藤が3つずつ、三巴紋の鍔金具が2個 下輪下部に三巴紋と下り藤が交互に3つずつ、菊の花と葉の模様</p>	
<p>墨書</p>	<p>上輪上部の鍔金具(令和6年9月7日撮影)</p>
<p>【箱身】「提燈」、「大谷町」、「若中」、「癸文久三/亥九月/吉日」 【箱蓋】（表）「河内交野郡/津田村/四町」、（裏）「鍔金物師/心齋橋本町北/岩井半兵衛/源兵衛/塗師/太兵衛/西横堀奈良屋橋西詰/挑灯師/綿屋/善七」</p>	
	 <p>箱蓋裏の墨書(令和6年9月7日撮影)</p>

その他

【鈴箱】蓋に「四町」、身横に「癸文久三／亥菊月／新調」「若中」「大谷町」「鈴箱」の墨書あり。

⑥横町 提灯1対2張を拝殿入口に出す

大きさ	画像
<p>【提灯1】最大長148cm、径46cm、火袋の竹の幅1.2cm（内々）</p> <p>【箱1】縦64cm、横64cm、高（蓋なし）71cm、箱蓋 縦67cm、横67cm、高6.5cm</p> <p>【提灯2】最大長142cm、径46cm、火袋の竹の幅1.2cm（内々）</p> <p>【箱2】縦57cm、横57cm、高（蓋なし）71cm・（蓋付）72.5cm</p>	 <p>提灯の虫干し（令和6年8月10日撮影）</p>
<p style="text-align: center;">鋳金具</p> <p>提灯1・2とも上輪は鶴と雲 下輪は宝珠に向き合うように龍が2匹と波、龍の目は金物 提灯1は龍が持つ剣が欠損</p>	 <p>上輪の鶴と雲の鋳金具（令和6年8月10日撮影）</p>
<p style="text-align: center;">墨書</p> <p>【箱1身】「提燈箱」「両社献灯」「安政貳歳/卯九月吉日」「横若中」</p> <p>【箱1蓋裏】「若中 彦太良/清吉/伊之口/奎治口/富之口/仁三口/辰之口/安之口/丑口/辰治良/安治良」（下部補修材で一部見えず）</p> <p>【箱2身】「提燈箱」「両社献灯」「安政貳歳/卯九月吉日」「横若中」</p> <p>【箱2蓋裏】「興行人/世話人/横町中/若中/連名/清吉/奎治良/仁三良/辰之助/彦太良/富之助/伊之助/安之介/丑松」（左側は補修材で人名が隠れている可能性あり）</p>	 <p>箱2身横の墨書（令和6年8月10日撮影）</p>

その他

【房箱】蓋に「万延元歳申九月吉日 横町中/提灯里組房品并鈴箱/若中」の墨書あり。

【丸提灯箱】身横に「明治甲申十月新調/津田村横町若連中」「産土神社献灯提灯箱」「明治甲申十月新調/津田村横町若連中」「産土神社献灯提灯箱」の墨書あり。

⑦嶽町 提灯2対4張を拝殿入口に出す

大きさ	画像
<p>【提灯 1-1、1-2、2-1、2-2】最大長 127 cm、 径 52 cm</p> <p>【箱 1、2】縦 52 cm、横 128 cm、箱蓋 縦 56 cm、横 131 cm、高 14 cm</p>	
<p>銚金具</p>	<p>提灯 1-1、1-2 (令和 6 年 10 月 18 日撮影)</p>
<p>【提灯 1-1、2-1】 上輪は龍宮城 上輪は龍宮城 下輪は龍と波・岩、剣を持つ人が泳ぐ</p> <p>【提灯 1-2、2-2】 上輪は龍宮城 下輪は波・松、玉手箱を持つ浦島太郎</p>	
<p>墨書</p>	<p>提灯 1-2 の浦島太郎の銚金具 (令和 6 年 10 月 18 日撮影)</p>
<p>【箱 1、2】「提灯篋」「天保十三/辰菊月/嶽 /若中」</p>	 <p>箱身横の墨書 (令和 6 年 10 月 18 日撮影)</p>

その他

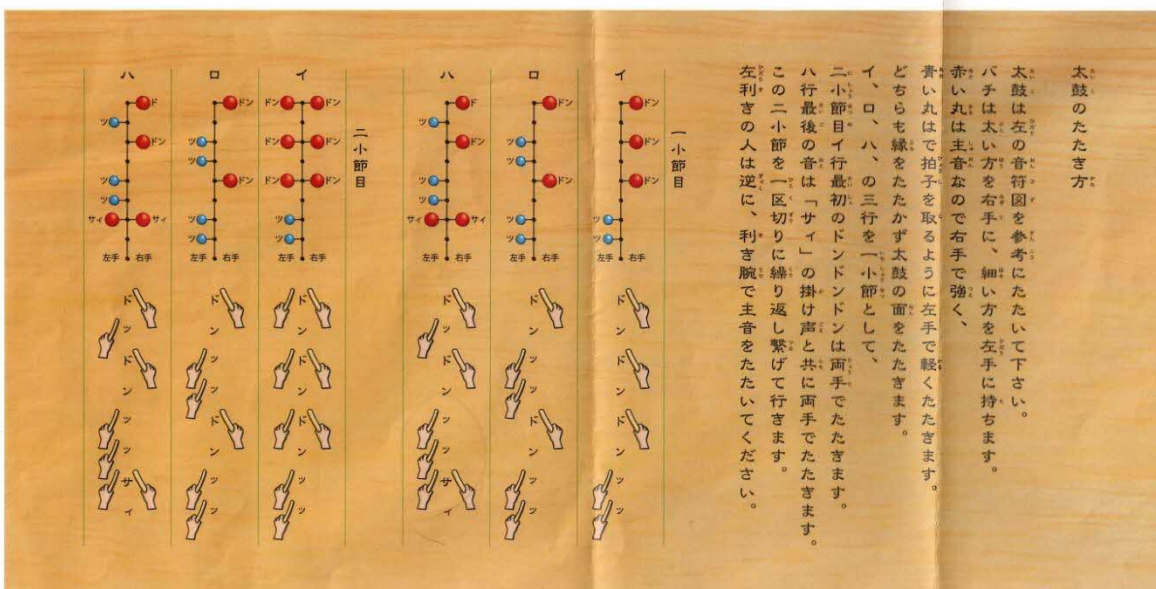
ひとつの箱に提灯が2張（1組）と房・鈴が入っている。
箱が大きいため、担ぎ棒あり。

⑧太鼓（大きさ、墨書は平成 28 年修理時の作業報告書による）

大きさ	画像
径 87.8cm~90.0cm、胴太 106.1cm~19.1cm、 胴高 96.9cm、重さ 87.5 kg	
墨書	
<p>【胴内】</p> 寛政二歳/戊九月吉日/摂州大坂渡辺村/細 工人/太鼓屋/又兵衛（花押） 大坂渡辺村/太鼓や/又兵衛（花押）/山野 文政九年/戊六月吉日/八幡二階堂村/太鼓 屋/文右衛門細工 河州駒池村/天保四/太鼓屋/伊助 天保十四年/卯戌六月四日/城内綴喜郡/八 幡口東村/細工人/太鼓屋/宋兵衛（花押） 弘化四歳/未八月吉日/河州交野郡/駒池村 /太鼓屋/野兵衛（花押）	

集会所で保管している太鼓（令和 6 年 8 月 11 日撮影）

太鼓のたたき方（平成 28 年作成）



太鼓のたたき方

太鼓は左の音行図を参考にたたいて下さい。
 バチは太い方を右手に、細い方を左手に持ちます。
 赤い丸は主音なので右手で強く、
 青い丸はで拍子を取るように左手で軽くたたきます。
 どちらも縁をたたかず太鼓の面をたたきます。
 イ、ロ、ハ、の三行を一小節として、
 二小節目イ行最初のドンドンは両手でたたきます。
 八行最後の音は「サイ」の掛け声と共に両手でたたきます。
 この二小節目を区切りに繰り返し繰り返して行きます。
 左利きの人は逆に、利き腕で主音をたたいてください。

(2) 民俗文化財の保全

展示等に使用した民具のクリーニングを実施した。

	資料名	受入番号	資料名	受入番号	資料名	受入番号
7月	味噌こし	0-1967	茄子洗	0-1953	米あげ	0-1936
	飯籠	0-1947	せいろ	0-1301	被せ	0-0010
	葛籠	0-0142	シンドウ	0-3410	担籠	0-1204
	天秤棒	0-0180	傘	0-1696	ささら	0-2088
	伸子針	0-2858	たらい	0-1854	石炭籠	0-3409
	箕	0-1236	鎌籠	0-1960	花立	0-2166
	茶摘籠	0-1971	手付籠	0-1949		
8月	戸棚箆笥	0-0357	箱入弓張提灯	0-2975	箱膳	0-0089
	壺	1-1558	壺	1-1636	水筒	0-1673
	水筒	0-1673	水筒	0-2131		
9月	草履	0-1540	草履	0-1542	こっぼり	0-1547
	足半草履	0-0008	草鞋	0-0526	下駄	0-1540
	下駄	0-2937	下駄	0-2938		
3月	横槌	0-2256	叩き台	0-0553	かます	0-1353
	藁袋	0-2679	棧俵	0-1394	棧俵	0-1395
	草履	0-3055	鞍	0-0461	牛草鞋	0-2029
	茶碗籠	1-1441	茄子洗	0-1953	鎌籠	0-1960
	味噌こし	0-1967	角籠	0-1590	しんどう	0-2955
	飯籠	0-3348	米あげ	0-19937	広蓋	0-1761
	炭籠	0-3048	花籠	0-2209		

(3) その他（特別利用等）

①大阪府立弥生文化博物館へ貸し出し

龍頭埋型原型（C-3-007）

4. 体験工房

(1) 主催事業

①体験工房講座

種別	講座名	開催日	対象	参加人数
鑄造講座	錫のぐいのみづくり	6月8日	一般	8人
	錫のぐい呑みづくり	7月15日	一般	8人
	親子でつくろう！ピカピカ！メダルづくり	7月27日	小学生以上と保護者	13人
	錫のぐい呑みづくり	8月24日	一般	8人
	錫のぐい呑みづくり	9月21日	一般	6人
	錫のぐい呑みづくり	10月12日	一般	6人
	青銅の表札・ランプシェード	11月9日・16日・23日・30日、12月7日・14日	一般	15人
	わくわく！子ども鑄造体験	3月27日	小・中学生	10人
彫金講座	シルバーリング作り	5月25日	一般	14人
	日本の伝統技術を学ぶ	6月15日・22日・29日、7月6日・13日	一般	9人
	シルバーリング作り	10月26日	一般	14人
	日本の伝統技術を学ぶ	1月19日・26日 2月2日・9日・16日	一般	7人
七宝講座	ミニ額作り	6月20日	一般	12人
	ワクワク！七宝体験	7月26日	小学3年生以上	15人
	銀線のペンダントトップ作り	9月10日	一般	10人
	銀箔で遊ぶ	10月25日	一般	10人
	だるま飾り	11月28日	一般	15人
	干支の正月飾り「巳」	12月19日	一般	16人
	縁起物	1月23日	一般	10人
	兜	3月21日	一般	16人
バーナーワーク講座	ガラスの動物づくり体験	6月26日	一般	9人
	トンボ玉作りの基礎技術を学ぶ	9月11日・18日・25日	一般	9人
	トンボ玉の基本技法を学ぶ	10月30日、11月6日・13日	一般	10人
	トンボ玉の基本技法を学ぶ	3月5日・12日・19日・26日	一般	9人

実施風景

【鑄造講座】



6月8日
錫のぐいのみづくり



7月15日
錫のぐい呑みづくり



7月27日
親子でつくろう！
ピカピカ！メダルづくり



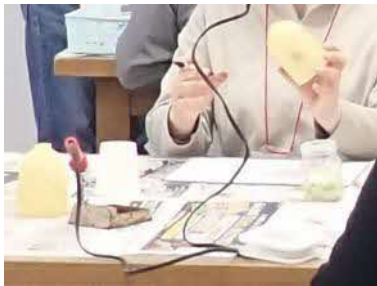
8月24日
錫のぐい呑みづくり



9月21日
錫のぐい呑みづくり



10月12日
錫のぐい呑みづくり



11月9日
青銅の表札とランプシェード



11月16日
青銅の表札とランプシェード



11月23日
青銅の表札とランプシェード



11月30日
青銅の表札とランプシェード



12月7日
青銅の表札とランプシェード



12月14日
青銅の表札とランプシェード



3月27日
わくわく！子ども鑄造体験

【彫金講座】



5月25日
シルバーリング作り



6月15日
日本の伝統技術を学ぶ



6月22日
日本の伝統技術を学ぶ



6月29日
日本の伝統技術を学ぶ



7月6日
日本の伝統技術を学ぶ



7月13日
日本の伝統技術を学ぶ



10月26日
シルバーリング作り



1月19日
日本の伝統技術を学ぶ



1月26日
日本の伝統技術を学ぶ



2月2日
日本の伝統技術を学ぶ



2月9日
日本の伝統技術を学ぶ



2月16日
日本の伝統技術を学ぶ

【七宝講座】



6月20日
ミニ額作り



7月26日
ワクワク！七宝体験



9月10日
銀線のペンダントトップ作り



10月25日
銀箔で遊ぶ



11月28日
だるま飾り



12月19日
千支の正月飾り「巳」



1月23日
縁起物

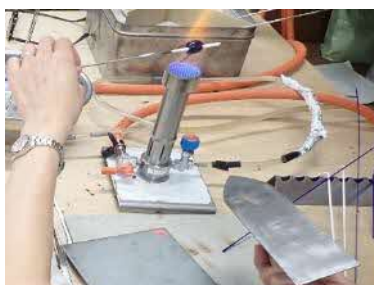


3月21日
兜

【バーナーワーク講座】



6月26日
ガラスの動物づくり体験



9月11日
トンボ玉作りの基礎技術を学ぶ



9月18日
トンボ玉作りの基礎技術を学ぶ



9月25日
トンボ玉作りの基礎技術を学ぶ



10月30日
トンボ玉の基本技法を学ぶ



11月6日
トンボ玉の基本技法を学ぶ



11月13日
トンボ玉の基本技法を学ぶ



3月5日
トンボ玉の基本技法を学ぶ



3月12日
トンボ玉の基本技法を学ぶ



3月19日
トンボ玉の基本技法を学ぶ



3月26日
トンボ玉の基本技法を学ぶ

(2) 施設利用

- ・一般利用の貸出では、団体登録・予約の受け付け、インターネット端末での予約管理を実施
- ・市民の施設見学や利用に関する問い合わせに適宜対応

令和6年度 体験工房利用内訳

月	公用等利用							一般利用			空き		利用人数		
	コマ数	準備	講座	文化財	資料館	比率	利用割合	コマ数	比率	利用割合	コマ数	比率	大人	子ども	合計
4月	2	0	0	2	0	4%	33%	4	8%	67%	44	88%	21	0	21
5月	4	0	2	0	2	7%	44%	5	9%	56%	45	83%	72	27	99
6月	10	0	9	0	1	19%	71%	4	8%	29%	38	73%	143	0	143
7月	9	0	7	0	2	17%	69%	4	8%	31%	39	75%	116	39	155
8月	5	0	2	0	3	9%	100%	0	0%	0%	49	91%	57	72	129
9月	7	0	7	0	0	14%	54%	6	12%	46%	37	74%	106	1	107
10月	8	0	6	0	2	15%	62%	5	9%	38%	41	76%	112	12	124
11月	11	0	11	0	0	21%	69%	5	10%	31%	36	69%	191	6	197
12月	6	0	6	0	0	13%	60%	4	8%	40%	38	79%	102	0	102
1月	3	0	3	0	0	7%	33%	6	13%	67%	37	80%	64	2	66
2月	5	0	3	2	0	10%	56%	4	8%	44%	39	81%	57	16	73
3月	7	0	7	0	0	13%	70%	3	6%	30%	42	81%	92	16	108
合計	77	0	63	4	10	13%	61%	50	8%	39%	485	79%	1133	191	1324

5. 施設利用・管理

(1) 資料館利用

①入館者数

令和6年度 入館者数

月	開館日数	個人		団体			体験工房				合計人数
		大人	子ども	団体数	大人	子ども	利用コマ数	利用率	大人	子ども	
4月	25	217	31	3	110	0	4	8%	21	0	379
5月	27	191	42	4	33	151	9	17%	72	27	516
6月	26	200	23	2	74	0	14	27%	143	0	440
7月	26	124	41	0	0	0	14	27%	116	39	320
8月	27	118	48	1	6	29	5	9%	57	72	330
9月	25	91	5	4	30	259	13	26%	106	1	492
10月	27	162	23	9	70	439	13	24%	112	12	818
11月	26	178	43	11	102	230	16	31%	191	6	750
12月	24	73	29	3	44	55	10	21%	102	0	303
1月	23	107	29	3	47	164	9	20%	64	2	413
2月	24	126	50	1	20	0	9	19%	57	16	269
3月	26	211	58	3	52	0	10	19%	92	16	429
合計	306	1798	422	44	588	1327	126	21%	1133	191	5459

*開館（昭和59年）からの累積入館者数 355,420人（令和6年3月末現在）

(2) 資料館管理

①委託による実施

- ・管理棟の玄関・通用口・体験工房出入口自動ドアの保守点検
- ・管理棟空調設備の保守点検
- ・庭園樹木・芝生の管理
- ・鋳物工場・主屋の虫害防除処理（工場天井こまい竹部）
- ・東側隣接斜面及び南側道路隣接地の除草
- ・消防設備点検
- ・電気施設の保守点検
- ・機械警備及び巡回警備
- ・管理棟トイレの日常清掃及び管理棟の定期清掃
- ・監視員による日常業務として館内を監視し、見学者の事故などを防止するとともに、館内や庭園の散水・除草などの日常的な清掃を実施
- ・体験工房から排出する塵芥の排出・処理
- ・体験工房の窯等設備点検

②職員による実施

- ・敷地内の雑木の枝払いを実施
- ・資料館施設及び施設内の設備・展示ケース・展示資料の補修・清掃、庭園の保守・管理などを適宜実施
- ・その他、火の始末・施錠など資料館施設に関わる一般管理業務を実施

③ 修繕

- ・主屋西側雨戸の修繕
- ・主屋西側・南側漆喰修繕
- ・管理棟給水配管の修繕

6. 研究報告

資料紹介 鋳物師田中家の近代史料

調査の経緯

枚方上之町で近世から鋳物業を営んでいた田中家が所蔵する古文書は、戦前からその存在が知られていた。古くは大正4年（1915）には、大正天皇の即位を記念した展覧会に出品されている（『皇室関係大阪府郷土資料陳列目録』大阪府立図書館、1916）。その後（旧）『枚方市史』（枚方市役所、1951）や『枚方の鋳物師（一）』（枚方市教育委員会・（財）枚方市文化財研究調査会、1990）でも田中家の史料の紹介がなされている。同書では近世だけではなく、近代の鋳物業についての記述もあり、明治後期から昭和初期にかけての「仮当座帳」や「出納帳」といった史料をもとに田中家における鋳造製品や販売方法、職人構成などについて詳細な分析がなされている。

当館では、平成21年（2009）から25年にかけて、それ以前に調査がなされていた古文書のほか、田中家で保管されている古文書を含めた田中家文書の悉皆調査を実施した。調査成果は、論稿と649点の古文書目録を収めた『枚方の鋳物師2—古文書編一』（枚方市教育委員会・（公財）枚方市文化財研究調査会、2014）として刊行されている。

その後、平成29年に田中家から未確認の古文書が見つかったとの連絡があったため概要を確認した。年代は一部近世後期のものもあったが、大半が明治以降のものであった。概観したところ田中家の鋳物業に関するものが多くみられたため、当館で調査を実施することにした。

調査は『枚方の鋳物師2』作成時と同じく、田中家で写真撮影を行い、その写真をもとに目録を作成した。写真撮影は平成19年から令和2年、目録作成は平成19年から令和4年にかけて実施した。

史料の概要

今回確認した史料は鋳物業に関するもの、田中家に関するもの、枚方町の行政に関するものに大別できる。

鋳物業に関するものは、明治後期から昭和中期までの製品の販売に関する帳簿類や領収書・請求書が多く、ほかに製品が評価された賞状など見られた。

田中家に関するものは、幕末から昭和にかけての祝儀・不祝儀などの記録のほか、日露戦争に出征した家族の書簡類を確認した。ほかにも、昭和14年（1939）に禁野火薬庫が爆発した時期の書簡が25通確認できた。爆発当時中国にいた田中家の家族が近隣の知人に見舞を送った時の返信であるが、発信者それぞれが当時のことを克明に綴っており、被災当初の状況を伺い知ることができるものである。

枚方町関係資料は、枚方町議会議案書や枚方町合併関連資料を確認した。明治から大正にかけての田中家の当主田中幸次郎は明治40年から44年に枚方町長を務め、弟源次郎も町議会議員を務めている。議案書類は昭和11～13年のものが確認できた。田中源次郎がこの時期に町議会議員であったため残されたのであろう。

以下、鋳物業に関する史料の中から帳簿類と新式甑炉の史料を簡単に紹介する。

帳簿類

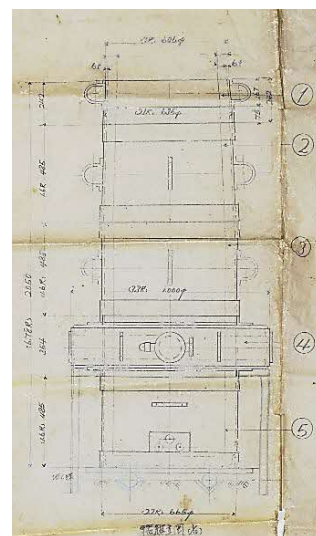
今回の調査では、これまで確認できなかった明治44年から大正2年にかけての掛売の記録簿である「仮当座帳」や、昭和10年頃のものとなる「出納帳」の2冊のほか、昭和3年頃の「当座帳」、大正11年からの「仕入帳」など、田中家の経営状況がわかる帳面がいくつか確認できた。今回の調査で改めて確認できた「仮当座帳」や「出納帳」は、これらの史料は、『枚方の鋳物師(一)』に記載がある通り、明治末年から大正期にかけての製品の種類や価格など販売状況がわかる資料である。ほかに、今回新たに確認した資料の中には戦後の製品の販売の記録も含まれていた。最も新しいものは昭和33~35年度の「売上簿」で、販売先ごとに商品名と販売数、価格が記録されている。この時期は個人や商店、農協に対しては従来からの製品である犁サキなどを販売していたが、その他に機械メーカーへ製品を販売していた記録も見られる。例えば昭和34年の記載によれば、津田の会社に「製縄機部品」や「ギヤー」などを販売していたことが確認できる。昭和30年頃は農業の機械化が急速に進み(『枚方市史』第6巻 枚方市、1984年)、犁サキなどの農具の需要が減り始めた時期である。田中家が、時代の変化に対応して農具から新たな製品への転換を試みていたことがわかる。



仮当座帳

新式甑炉

現在当館で展示している新式甑炉は、昭和15年頃に送風機の導入に伴って設置されたといわれている。従来この甑炉についての記録は知られていなかったが、今回の調査で「老甑コシキ(組立一部品図)」と書かれた図面を確認した。製造年や製造会社の記載がないものの、設置当初の甑炉の構造がわかるものである。この図面には甑炉を構成する5節の各部分に①~⑤の番号を振り、それぞれ側面図・半断面図に法量(単位は尺)が記している。写真右は本図面のうち組み立てた全体図である。ここにも①~⑤の番号が記され、各部分がどのように組み立てられているかわかり、甑炉の構造がよくわかる。図の下には「総テ空気熔接ニテ製作」「胴板ヲ1/4厚が覗孔蓋口適當ニ製作ノ事」と製作上の注記がある。



老甑コシキ(組立一部品図)
(部分)

以上特徴的な史料を簡単に紹介した。田中家の近代史料は近世文書よりもはるかに多くの量が残っている。今後、これらを読み進めることで、近代における田中家の様子がより詳しくわかるものであると考えられる。

(学芸員 吉川邦子)

枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館 年報
令和8年(2026)2月5日
編集・発行 枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館
〒573-0155 枚方市藤阪天神町5番1号
TEL (050) 7105-8097 FAX (072) 858-4665